

## 読売新聞 きょう（11月13日）のイチ押し

### 一面・社会面 コロナ病床 3万7千人分を確保へ 経口薬も

政府は、新型コロナウイルス感染の「第6波」に向けた総合対策の全体像を決定しました。今夏の「第5波」のピーク時に比べて約3割増の3万7000人分の入院を受け入れられる体制を整備します。3回目のワクチン接種の体制整備や、年内の実用化を目指す経口薬（飲み薬）を計約160万回分確保することなどを盛り込みました。

- ★対策では、「第5波」と比較して感染力が2倍になった時を想定し、病床や入院待機施設などを増やして医療提供体制を強化しました。全国の確保病床は、9月1日時点で3万9419床でしたが、今月末までに約6000床を積み増す見込みです。
- ★米製薬大手メルクが開発した新型コロナの飲み薬「モルヌピラビル」について、日本は早期の薬事承認を前提に、年内に約20万回分、年度内に40万回分、更にその後100万回分を確保するメドをつけました。

### 一面・社会面 オプジーボ 280億円で和解 本庶氏に解決金

ノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑・京大特別教授が、自ら開発に携わったがん治療薬「オプジーボ」を巡り、製造販売する小野薬品工業（大阪市）に特許使用料収入の一部約262億円の支払いを求めた訴訟は、大阪地裁で和解が成立しました。小野薬品が本庶氏に50億円を支払い、京大の基金に230億円を寄付します。

本庶氏側は、小野薬品が米製薬大手から得る特許使用料の40%を支払う約束をしたのに、1%しか支払っていないとして、提訴していました。小野薬品側によると▽特許使用料の支払い割合は契約書の1%を維持▽解決金などとして本庶氏に50億円を支払う▽京大に新たに設立する研究基金に230億円を寄付する——との内容で和解が成立しました。

#### 他紙と比べて

プロ野球セ・パ両リーグのクライマックスシリーズ・ファイナルステージ第3戦が行われ、ともにリーグ王者のヤクルトが6年ぶり、オリックスが25年ぶりの日本シリーズ進出を決めました。きょうの紙面では2ページを割いて歓喜の試合を伝えています。プロ野球報道に力を入れる本紙は、20日開幕の日本シリーズへ向けて充実した発信を続けます。